

## 2. 教育研究組織

### 1. 現状の説明

- (1) 大学の学部・学科・研究科・専攻および付置研究所・センター等の教育研究組織は、理念・目的に照らして適切なものであるか。

本学は「校訓『三実』」の態度を基本とし、現代の市民に必要な幅広い教養、国際感覚をそなえて、時代の変化にあわせて積極的に社会を支え、改善していく資質を有する「21世紀型市民」の育成を目指している。それを実現するために、経済学部（経済学科）・経営学部（経営学科）・人文学部（英語英米文学科、社会学科）、法学部（法学科）、薬学部（医療薬学科）の5学部、及び大学院経済学研究科（修士課程、博士後期課程）、経営学研究科（修士課程、博士後期課程）、社会学研究科（修士課程、博士後期課程）、言語コミュニケーション研究科（修士課程）を設置している<sup>2-01</sup>。

これらの学部・研究科は歴史的に順次設置されてきており、どの組織も「校訓『三実』」に基づいた理念を掲げて設置認可を受けている。

また、直接に学生を有する上記の学部・大学院以外に、教育研究の支援組織として、図書館、総合研究所（下部組織として地域研究センター<sup>2-02</sup>）、言語・情報研究センター<sup>2-03</sup>）、情報センター、国際センターが設置されており、また、社会貢献のための組織としてコミュニティ・カレッジが設置されている（『学生便覧』<sup>2-04</sup>p. 11）。

これらの組織はいずれも「校訓『三実』」の理念の下に学内関係部門での議論によって設置されており、本学の理念に照らして適切に設置されている。

- (2) 教育研究組織の適切性について定期的に検証を行っているか。

大学基準協会による認証を受けるに当たって2005年に点検・評価が行われ、『松山大学の現状と課題－2005年度点検・評価報告書 大学基礎データ調書－』が作成された。その中で教育研究組織について、「原則として学部を基礎として大学院を設置する」との方針の下で人文学部を基礎に大学院社会学研究科、言語コミュニケーション研究科が設置された。また、薬学部の設置も言及されている（『松山大学の現状と課題』<sup>2-05</sup>p. 17）。このように、自己点検・評価報告書作成時に、その時の組織に関する点検が行われた経緯があるが、それ以外は定期的な点検は行われていない。

薬学部に関しては設置以来定員割れが続いたことから全学的な議論が行われ、2015（平成27）年度に再度点検を行うことになっている<sup>2-06</sup>。

このように、定期的ではないが、問題が認識された時点で、その都度検証されてきている。

## 2. 点検・評価

### ① 効果が上がっている事項

効果が上がっている事項については、箇条書きで以下に挙げる。

- ・学部・大学院といった歴史的に設置されてきた機関はともかく、上記の情報センター、国際センター、コミュニティ・カレッジについては環境変化の中で社会的に必要とされてきた機能を組織として結実させたものであり、その点からすれば、本学の教育研究組織は社会の要請に対応してきているものと評価できる。

## 2. 教育研究組織

### ② 改善すべき事項

改善すべき事項については、箇条書きで以下に挙げる。

- ・特記事項なし

## 3. 将来に向けた発展方策

### ① 効果が上がっている事項

将来に向けて更に伸長・維持するための方策については、箇条書きで以下に挙げる。

- ・「教学施設及び教学組織」については教学会議の審議事項とされている（「松山大学教学会議規程」<sup>2-07</sup>第4条2項の4）。社会の要請に対応した教育研究組織の検討も引き続き教学会議で行っていく。

### ② 改善すべき事項

将来に向けた改善方策については、箇条書きで以下に挙げる。

- ・特記事項なし

## 4. 根拠資料

- 2-01 「学校法人松山大学寄附行為」
- 2-02 「松山大学総合研究所地域研究センター規程」
- 2-03 「松山大学総合研究所言語・情報研究センター規程」
- 2-04 『学生便覧2012』（既出 資料1-01）
- 2-05 松山大学オフィシャルサイト：大学基準適合認定について  
『2005年度松山大学自己点検・評価報告書』  
<http://www.matsuyama-u.ac.jp/gaiyou/joho/hyouka/hyouka.htm>
- 2-06 薬学部入学定員の変更（学則変更）について
- 2-07 「松山大学教学会議規程」